

「没後60年 火野葦平展—レットテルはかなしからずや—」

館長 今川 英子

コロナ禍が続いています。当館の常設展示を中心にしたリニューアルのオープン予定は三月二〇日でしたが延期となり、五月に二日間開館したものの再び休館、六月一九日からようやく平常通りの開館となりました。但し、マスク着用や体温測定、アルコール消毒、連絡先の申告など、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策にご協力をいただいております。

感染拡大の不安が消えないこともあり来場者は一日三〇人程度と少なく、人数制限をするまでもないのですが、滞留時間が長く、ゆったりとした雰囲気の中で、展示の資料や解説文章を丁寧に読んでいただいていることに、これからの文学館の在り方や役割、その評価を考えさせられています。

さてこの秋は、「東アジア文化都市二〇二〇北九州」の一環として、市立美術館や漫画ミュージアムと協同して「SF」をテーマに展覧会を開催する予定でしたが、コロナ禍のために調査や資料収集がままならず、やむなく中止に至りました。文学館では、筒井康隆さんを総合監修に迎え、展示監修をお願いした長山靖生さんにご指導いただきながら、「日本SF文学クロニクル」と題して、SF文学の古典から現代までを通観する構成で準備を進めておりました。ことに隆盛期を担う星新一、小松左京、筒井康隆は厚く展示する予定で、パンデミックの状況下で中止となったものの、改めて彼らの作品のSF的想像力による先見性に瞠目するとともに、再評価の気運が高まっていることは嬉しいこと

です。虚構の世界から現実を相対化した優れた小説は未来を予言しています。

そこで替わって、今年に没後六〇年となった火野葦平をとりあげることにしました。

タイトルは「レットテルはかなしからずや」。「兵隊三部作」によって名声を得ていた一九四〇年に描いた色紙の一節です。元火野葦平資料の会会長の故鶴島正男さんは、「葦平ほど、歴史の烙印とも思えるレットテルを貼られ続けた人も稀である」と述べていますが、そのレットテルをいかに剥がしていくかの営みがこの数年顕著になりました。要因の一つに、ご遺族から市に寄託された三万点を超える資料が当館によるデータベース化で詳細が明らかとなり、全国から訪れる研究者によって研究成果が発表されていることがあります。また二〇一三年に放送された「NHKスペシャル 従軍作家たちの戦争」「E.T.V特集 戦場で書く作家 火野葦平の戦争」は全国的な反響を呼び、番組のディレクター・渡辺考さんの詳細な取材記は、戦中戦後の葦平に伴走しながら、世界情勢が混沌を極める不条理な時代の今、毅然と正直に生きることへの困難を私たちに突きつけます。

北九州若松で生まれ、若松で自死した葦平の生涯と作品は、それが時代の渦に巻き込まれた表現者のあがきと苦悩であったとしても、この街の歴史や風土、社会背景を抜きにしては語る事ができません。この展覧会がその一助になることを希うものです。

目次

- 「没後60年 火野葦平展—レットテルはかなしからずや—」…………… 1
- 収蔵品展「北九州の文学者」…………… 2~3
小特集「今読みたい！私たちのまちの児童文学」資料紹介
- 特集：第11回 子どもノンフィクション文学賞…………… 4~5
第12回 作品募集
- 高山羽根子さんが芥川賞受賞
- 杉田久女・橋本多佳子記念室 展示資料紹介…………… 6

- 「没後60年 火野葦平展—レットテルはかなしからずや—」展示予定資料紹介 …… 7
- 「日本SF文学クロニクル」展中止のお知らせと、「没後60年 火野葦平展—レットテルはかなしからずや—」開催について
- 北九州市立文学館文庫17 火野葦平『青春の岐路』
- 展覧会予告…………… 8
北九州市立文学館第28回特別企画展
「没後60年 火野葦平展—レットテルはかなしからずや—」
- お祝い・お悔やみ／寄贈者・提供者、提供雑誌

収蔵品展「北九州の文学者」

資料紹介

二〇二〇年八月四日～十一月一日

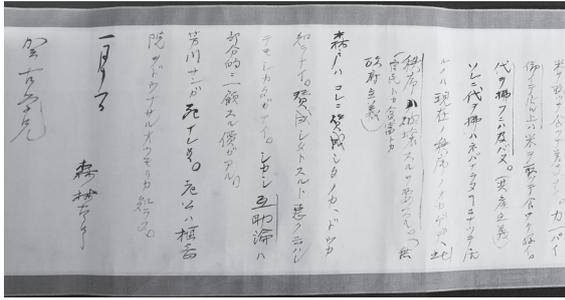
リニューアルオープンを記念し七月二十六日まで開催した収蔵品展の展示替えとともに、新たに小特集を加え、延長開催しています。原稿、書簡、短冊、色紙などの自筆資料のほか、書籍・雑誌など約一五〇点の収蔵資料を展示しています。

六人の文学者、児童文学の展示資料をご紹介します。

森鷗外・賀古鶴所宛書簡

(一九二〇年一月二日付)

「森戸事件」についての所感を友人に宛て送ったもの。この事件は、一九二〇年、東京帝国大学助教授の森戸辰男が無政府主義者クロポトキンに関する論文を



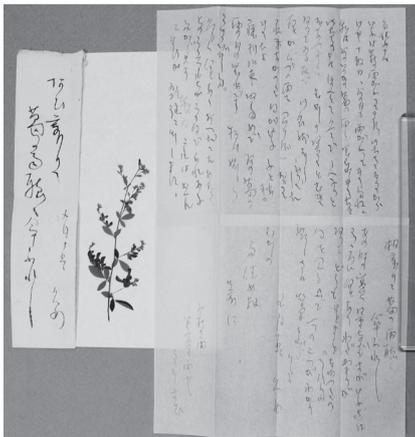
発表したところ、「危険思想」であるとして起訴、有罪となり失職した事件です。鷗外はクロポトキンの思想について「互助論ハ部分的ニ一顧スル価ガアル」と述べています。

杉田久女・橋本多佳子宛書簡

(一九三四年九月一日付)

※初公開資料

主宰誌「花衣」の廃刊以来四年目を迎え、萩の雨にあつて多佳子と打たれた葛の雨を思い出した、という内容。「久しく何となく打へだつたあなたとのこゝろもちがこの句でふれあふ気がします」と、萩の花の押し花と自作の句「相寄りて葛の雨聴く傘ふれし」を手紙に同封しています。この句は一九三四年一月号の「ホトトギス」雑詠欄に掲載されました。



橋本多佳子・短冊「くもり来し 昆布干場の野菊哉」

(一九二五年)

多佳子は一九二二年から俳句を学び、二五年から「ホトトギス」「天の川」などの俳句誌に投稿を始めます。この句は同年、夫・豊次郎と鉄道省主催「樺太観光団」に参加、樺太（現サハリン）、北海道を旅した折に詠まれ、二七年四月の「ホトトギス」に入選。白樺の樹皮を使った短冊となっています。またこの旅に参加していた北原白秋の紀行文「フレップ・トリップ」で、多佳子と豊次郎はH夫妻として登場します。



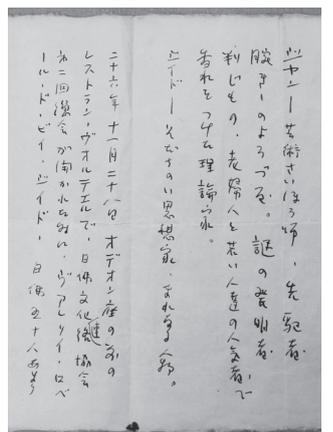
林芙美子・パリ滞在時のメモ

※初公開資料

パリ滞在時（一九三二年一月～三年五月）の資料のなかに遺されていた自筆メモ。詩人のジャン・コクトー、小説家のアンドレ・ジイドなどについて書かれています。特にコクトーについて「ジャン・芸術さいほう師、先駆者／腕き、のよろづ屋。諷の発明者／判じもの、老婦人と若い人達の人気者で／香水をつけた理論家」など印象が羅列されています。芙美子は滞在中、コクトーの映画「詩人の血」を二度見に行き、「一寸おそろしい映画だ、あんなのを見ると、小説がかきたくなる」（一九三二年の日記）と影響を受けたことがうかがわれます。

火野葦平・屏風「河伯十夢」

葦平は河童を愛し、小説や絵を多く遺しました。屏風「河伯十夢」は、河童の絵と画賛の一〇枚の短冊を組み合わせた、劉寒吉が屏風に仕立てたものです。「蕎麦の花（かっぱ小説集）」所収の「皿」「月かげ」「海御前」「蕎麦の花」などをモチーフに描かれた短冊が確認されます。



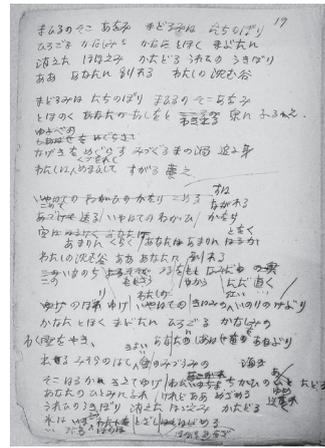
宗左近・詩稿「まひるの底」

(一九四四年)

「まひるの底」は東京帝国大学哲学科に在籍していたところに書かれた詩稿。一九五九年、第一詩集『黒眼鏡』を刊行し、この詩も収録されました。七連の構成は草稿から変わっていませんが、漢字の多用や改稿が確認できま



す。最も大幅な改稿は五連・二行目。草稿の「あなたのひとみにふれ／＼れどああめざめる」が、刊行時に「あなたに零りそそげ……だが凍る！もう遅い！」に改稿されます。



收藏品展 小特集

「今読みたい！ 私たちのまちの児童文学」

北九州の児童文化活動の始まり、児童文学の同人誌、児童文学を書いた作家と作品について紹介しています。

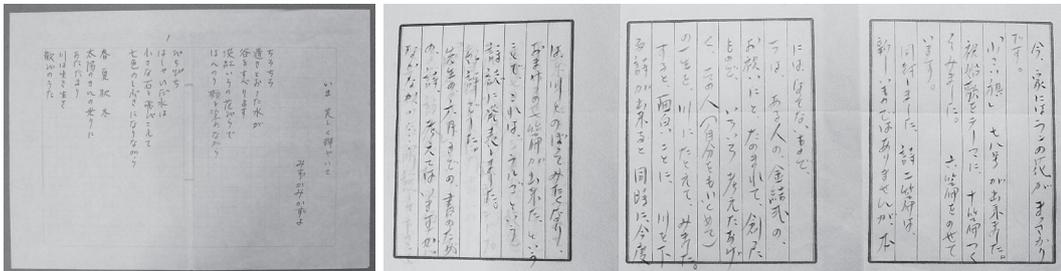
※展示順、すべて初公開資料



みずかみかずよから山本飛雲宛書簡（一九八七年三月二六日付）、詩稿「いま美しく輝やう」 「ふるやうへ」

※山本飛雲氏寄贈

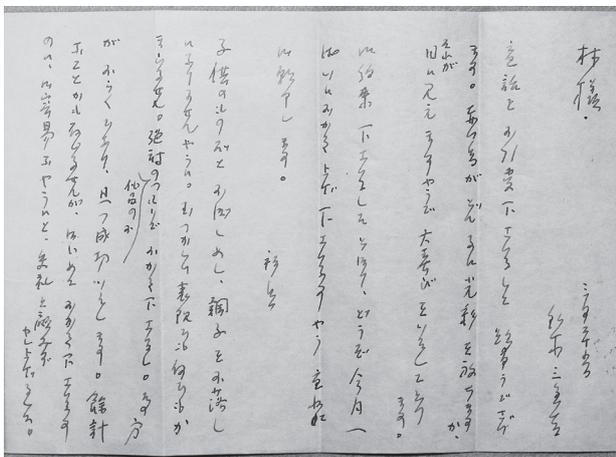
詩人のみずかみかずよと同年（一九八一年）に北九州市民文化賞を受賞した書簡。詩稿二篇が同封され、詩が生まれた経緯が書かれています。詩「いま美しく輝やう」「ふるやうへ」は「ある人の金婚式のお祝い」に頼まれて創ったもので、「この人（自分を）もふくめて」の一生を、川にたとえてみました」とあります。また、「同時に今度は川をのぼって見たくなり、おまけの一篇」 「詩」 「ふるさ」と「」ができたことも分かります。万年筆が使われたかすよの自筆原稿は珍しいものです。



鈴木三重吉から林芙美子宛書簡

（一九三六年三月二五日付）

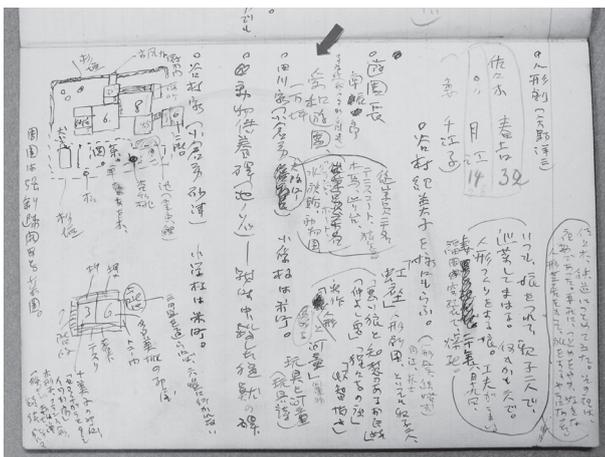
児童文芸雑誌「赤い鳥」（鈴木三重吉主宰）への寄稿を引き受けた芙美子へのお礼。「赤い鳥がどんなに光彩を放ちますかそれが目に見えますやうで大喜びをいたしております」と書かれます。また、「子供のものだとおぼしめし調子をお落としになりませんやうに」「その方がおらくであり且つ成功いたします」など執筆アドバイスも。芙美子は童話「蛙」を一九三六年八月号に掲載、この号は三重吉の死（同年六月）により最終号となり、「蛙」は芙美子が「赤い鳥」に掲載した唯一の作品となりました。



火野葦平 創作ノート

（一九四九〜五〇年ごろ）

葦平は小説だけでなく子ども向けの作品も書きました。戦後は「少女クラブ」、「少年少女冒険王」などの雑誌に「虹を求めて」「海底火山」雲を呼ぶ笛などを連載しました。ノートには、「虹を求めて」の舞台をイラストで描いたもの、登場人物の細かいプロフィール設定など、執筆にあたり入念に構成を練った跡が見られます。同作は北九州の到津遊園をモデルにした「愛和遊園」を主舞台とし、心の美しい七人の少女たちが固い友情で困難を切り抜ける物語。一九五〇年一月から二月まで、「少女クラブ」に毎月連載、『友情小説のち』 『七色少女』（同和春秋社一九五〇・一一）として出版されました。



特集：第11回 子どもノンフィクション文学賞

今年も「子どもノンフィクション文学賞」の募集が始まりました。

毎年すばらしい作品が選ばれているこの文学賞ですが、昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から表彰式が中止となりました。

そこで小学生の部で大賞を受賞した前田海音さん（北海道 伏見小学校）と中学生の部で大賞を受賞した酒井淳一郎さん（東京都 京華中学校）に受賞の感想をお伺いしました。

質問内容 ①作品を応募したきっかけ ②受賞した感想 ③受賞後の反響など

小学生の部 大賞 前田海音さん
受賞作品

「二平方メートルの世界で」
「病気と向きあうゆきをくれたのは、おなじように入院生活を送っていた名前も知らないだれかの言葉でした」

① 作文を書いただけで最初は満足だったのですが、この作文はたくさんの人に読んでもらい、私にメッセージを託してくれた病気と闘うみんなのことを知ってもらいたい、と思うようになりました。そこでコンクールなどに応募したいと思いました。

しかし、この作文は原稿用紙10枚と長文です。多くの作文コンクールは1200文字以内などの制限があります。でも、どの言葉も出来事も文章からけずりたくなくて、どうしようかと思っていました。そこで母が探してくれたのが、枚数制限が20枚まで、というきまりの子どもノンフィクション文学賞でした。「君だからこそ感じて考へることができたものを、君にしか書けない表現で作品にしてください」という募集内容を見て、これだ！と思いました。

② 3月、担任の先生から母の携帯電話に「なんか北九州の文学館から連絡が来たんだけど！しかも大賞とか言ってるんだけど何のことだかわからなく

て！」と取り乱した連絡が来たのですが、私も家族も大賞？誰が？とピンとこなくて、朝日新聞のインターネット記事で受賞を知りました。びっくりというか、えー？と信じられない気持ちでした。

冊子と盾を送っていただいて、実感がやっとなってきました。うれしかったです。冊子の審査員の先生方の講評を読んで、もったいないようなお言葉にすぐくソワソワしました。そして、できれば実際にお会いしてお言葉を聞きたかったな、と思いました。

③ 朝日新聞、朝日小学生新聞、毎日新聞、STVなどの方々から取材を受けました。記事を読んで私の通う小学校に感想を伝えてくださった方もいらっしやったようです。また、北海道出身の国会議員の方からお手紙をいただいたり、ABCラジオのパーソナリティの方が朗読してくださったりしました。Yahoo!ニュースで取り上げられたことでツイッターでもつぶやかれたりしたことは驚きしかなかったです。和歌山県のおやの台小学校の5年生の皆さんが、私の作文を読んでお手紙を書いて送って下さいました。同じくらいの年代の皆さんがこうして読んでくださったことがとても嬉しかったです。

私が北海道で書いた作文が、こんなにいろいろな場所で読んでいただけたことはとてもありがたいし、言葉の

力ってすごいなあと思いました。あらためて私の作文を選んでくださったこの文学賞にありがとうという気持ちでいっぱいです。そして、このコロナのことがおちついたら、ぜひ文学館に行ってみたいと思っています。

中学生の部 大賞 酒井淳一郎さん
受賞作品

「広島のある女子中学生の昭和二十年八月六日からの足跡」
「昨年、原爆を経験した方にお話を伺いました。胸が詰まりえぐられる思いがした話をまとめました」

① 僕は、小学生の時から、ずっと、伝統工芸、戦争、環境について調べてきました。昨年は、風鈴の研究をし、発表をしました。また、ペットボトルを減らすことも研究しました。さらに、原爆の被害について調べ、この文学賞に応募しました。

このような研究のきっかけは、小学4年生の時の、母のひとことでした。僕が、川の汚れについて、「どうして、川は、あんなに汚れているの」と尋ねました。すると、母が、こう答えました。「自分で、しっかり見て、時には、人に聞いてもいい。現実をしっかりと知ること。そうすれば、きっと、原因がわかると思う。」僕は、母に、言いました。「川の周辺で、ごみ拾いのボランティア

アをしている人たちがいるの、知ってる。」すると、母が答えました。「ええ、よく知っているわ。一緒に、やろうか。」こうして、僕の環境の研究は始まりました。そして、その時、大事なものは、自分の目で見て、耳で聞いて、実際に知る。そして、知ったら、少しでも多くの人に知ってもらおう努力をすることだと、知りました。そんな努力のひとつが、「子どもノンフィクション文学賞」への応募だったので。

②自分の調べてきたことが認められたことが、もの凄く嬉しかったです。でも、僕は、こうも思いました。原爆のような悲劇を、無理して話して下さった内田さんに、早く伝えないといけないと。僕は、受賞の記事が新聞に掲載されるとすぐ、新聞を持って、介護施設を訪れました。

内田さんは、「えっ、私の話が受賞ですって。淳ちゃん、将来、きっと、松本清張さんみたいな作家になれるわよ」と言って、涙を流して、喜んでくたさいました。

僕は、辛くて悲しい思い出も、ほんの少し、周りが努力をすれば、喜びに変わることを、この時、知りました。作品の中で「内田さん」は仮名で書かせていただいています。戦後、偏見を恐れた内田さんが被爆者であることを娘さんにも話さなかったと話されています。

③どこで、僕の受賞を知ったのか、不

思議になるほど、多くの人たちから、電話をいただきました。小学校の時の友だち、先生方、中学校の友だちから。そして、一番驚いたのが、僕が調べるのに利用してきた、いろいろな図書館や歴史民俗資料館の司書の先生方や芸員の先生方が、大勢、「すごいね。よく、やった」と、まるで、オリンピックで金メダルを取ったアスリートに贈るような言葉を、何日にもわたってくださったことでした。聞くと、皆さん、新聞を見て、電話して下さったようです。

そして、中には、学校や図書館の壁に、受賞の新聞記事を拡大して貼ってくださったところも、ありました。僕は、この文学賞のすごさと、新聞の伝達する力に、改めて驚きました。



お二人の日々の努力や親御さんとの関わり、また受賞の喜びがわかり、文学館職員もとても感動しています。ぜひこの状況が落ち着いたら文学館に遊びに来ていただきたいです。

また、子どもノンフィクション文学賞で様々な賞（第4回小学生の部 大賞、第9回中学生の部 大賞など）を受賞された梅田明日佳さんの「ぼくの『自学ノート』」が今年7月に小学館から出版されました。何かと話題の子どもノンフィクション文学賞です！

他県の方からも「子どもノンフィク

ション文学賞」の作品を読みたい！という問い合わせが来いています。

今までの受賞作品を読みたい方は、文学館の子どもノンフィクション文学賞のコーナーで読むことができます。また、当文学館ホームページでも過去の作品を掲載していますので、ぜひ、ご覧になってください！

作品募集中!!

第12回

子どもノンフィクション文学賞

(締切12月1日)

ノンフィクションとは、自分で、見たり、聞いたり、経験したことを、調査・分析・理解し、つくりごとを加えずに、自分の言葉で表現したものです。

4000字詰め原稿用紙で、小学生の部は3〜20枚、中学生の部は5〜50枚以内。(縦書き)。

詳しくは文学館ホームページ

(<https://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>)に掲載しています。



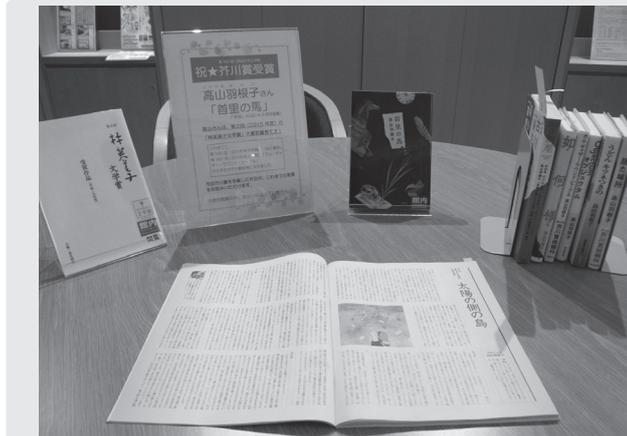
高山羽根子さんが

第163回芥川賞受賞

本市が主催する「林芙美子文学賞」第2回大賞受賞者の高山羽根子さんが、「首里の馬」で、第163回芥川賞を受賞されました。

高山さんは、「太陽の側の島」で第2回林芙美子文学賞の大賞受賞後も、複数の文学賞の受賞候補となるなど、活躍されました。芥川賞には第160回と第161回にノミネートされ、3回目での受賞となりました。

高山さんの今回の受賞作品や、これまでの著書は館内で閲覧できます。



杉田久女・橋本多佳子記念室 展示資料紹介

北九州市ゆかりの俳句作家である杉田久女と橋本多佳子の記念室が、平成三〇年一月に北九州市立小倉城庭園内に開設しました。文学館は展示資料の監修を担当しています。

北九州市は多くの俳人を輩出していますが、なかでも、杉田久女・橋本多佳子は「文学の街・北九州」が誇る近代俳句の先駆者です。この記念室は、多様な資料（レプリカ）を通じて久女・多佳子を身近に感じることができ、本稿では、改めて資料の一部をご紹介します。

杉田久女・帝国風景院賞金牌

一九三〇年に開催されたコンクール「日本新名勝俳句」で、杉田久女の句「研して山ほととぎすほしいま、」は、十萬句以上を超える応募から、頂点の帝国風景院賞二〇句の一つに輝きます。英彦山に何度も足を運んで詠まれたこの句は、山岳の部（英彦山）でも金牌賞を受賞しました。

（原本はかこしま近代文学館蔵）

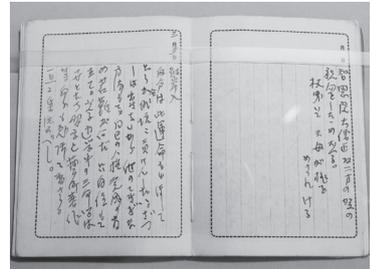


杉田久女・日記一九三三年三月二十一日

「自分は此運命をとほしてどうにか全俳壇に貢献したい。ざつしは出さないから他のてきぎな方法もて」と綴られています。

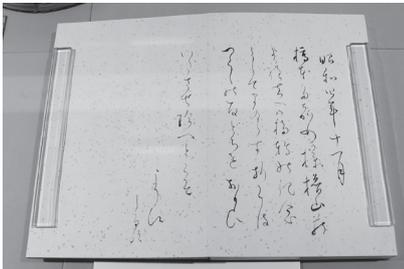
「ざつし」とは、久女自身が編集・執筆した主宰誌「花衣」のこと。一九三二年春に発刊、充実した内容で好評を博し、五号まで発行しました。この日記は突然の廃刊から約半年が経過したときのもの。なお冷めやらぬ俳句への情熱が感じられます。

（原本はかこしま近代文学館蔵）



橋本多佳子・つくし帖

一九二九年、橋本多佳子夫妻が小倉を去るのを惜しみ、俳友が書き贈りました。杉田久女、久保猪之吉、より江、竹下しづの女など、全国に名



を馳せた福岡を代表する句人の筆跡が並んでいます。

橋本多佳子・着物

橋本多佳子の遺愛の着物です。資料保護のため、定期的に展示替えを行っています。現在は、海老茶色の落ち着いた柄の着物をご覧いただけます。文学館でも未公開のものもこれから展示していく予定です。



橋本多佳子・櫓山荘模型

橋本多佳子が住んだ櫓山荘は一九二〇年に小倉・中井浜に建てられました。この模型から往時の姿をしのぶことができます。三階建ての瀟洒な洋風建築で、北九州の文化



櫓山荘模型

サロンとして賑わい、多くの著名人が訪れました。二二年三月には高浜虚子を迎えた歓迎會が開かれました。この時、多佳子は初めて俳句に興味を持ち、杉田久女に手ほどきを受けることとなります。

なお、小倉城庭園の露台「月見テラス」には、かつて櫓山荘に置かれていた灯笼、榻（長椅子）、蹲（手水鉢）も移設されています。



小倉城庭園

【小倉城庭園】

小倉城庭園は、小笠原氏の別邸であった下屋敷跡の復元を中心とした文化施設です。大名の庭園と、武家の書院を再現しています。展示エリアでは伝統的な日本文化の紹介のほか、企画展も随時行われています。

小倉北区内1-2

093(582) 2747

入館料 一般350円・中学生200円

小学生100円

休館日・無休

開館 4月～10月は9時～18時、

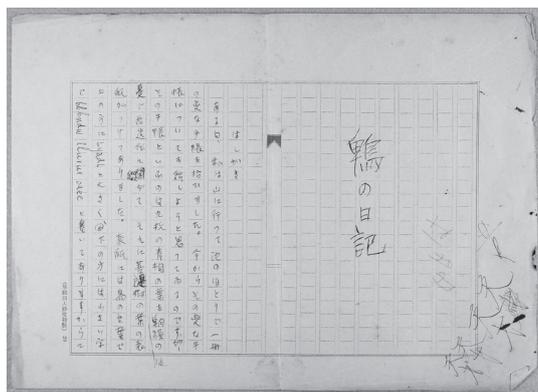
11月～3月は9時～17時

「没後60年 火野葦平展—レットテルはかなしからずや—」 展示予定資料紹介

今秋開催の「没後60年 火野葦平展—レットテルはかなしからずや—」の開催を前に、展示予定の資料を三点、先ずご紹介いたします。

①原稿「鶉の日記」

火野葦平は実は子ども向けの作品を多く書いています。自費出版で初めて出した本『首を売る店』も児童向けのものでした。この「鶉の日記」は、大正一四年、当時一九歳の葦平が講談社に持ち込んだ原稿で、鶉が書いた日記という体裁で、鶉や太陽を拵しらえる小人や、怪物のような「時」などが登場するファンタジー色豊かな作品です。しかし残念ながら没書となり、返送され、葦平の手元で保管されていました。習作期の貴重な資料です。

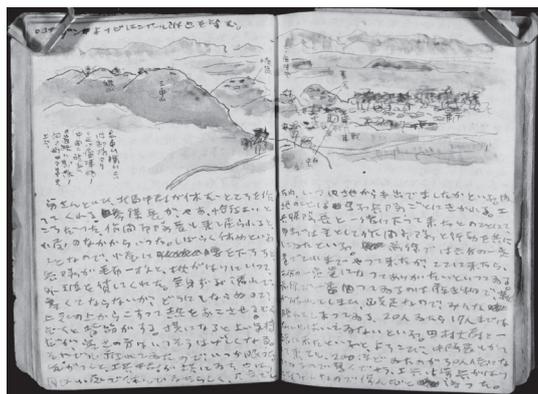


原稿「鶉の日記」

②従軍手帳「インパール作戦」

一九四四年四月、葦平は報道班員として画家の向井潤吉、作曲家の古関裕而とともにインパール作戦に従軍します。本資料はその際に書き記したもので、全部で六冊あります。敗色濃厚な戦地での兵隊の悲惨な状況、現地の人々の暮らしぶりやスケッチ、地図などが記されています。

葦平はこの手帳をもとに、戦後の四年に「青春と泥濘」の稿を起し、四八年から「風雪」で連載を始めました。しかし、GHQの介入に嫌気が差し、中断。翌年「風雪」一二月号に一挙に掲載し、完結させ、五〇年三月に六興出版社より単行本として刊行されました。

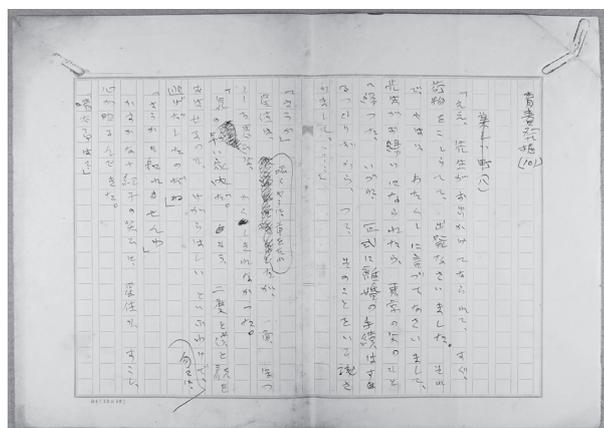


従軍手帳「インパール作戦Ⅲ」

③原稿「青春発掘」

「青春発掘」は一九四九年一〇月一日から翌年三月一〇日にかけて、「時事新報」「大阪新聞」に全一四一回連載された作品です。

当時、葦平は戦争責任を問われ、公職追放処分を受けていました。しかし「時事新報」文化部長の今井欣三は「自分の方はパージ（追放）でもなんでも、そんなことはかまわないから」と薦め、連載が決まりました。のちに葦平は「その言葉はうれしかった」と当時の思いを書いています。その後、五六年六月に東方社より単行本として刊行されました。



原稿「青春発掘」第101回

「日本SF文学クロニクル」展中止のお知らせと、

「没後60年 火野葦平展—レットテルはかなしからずや—」開催について

一〇月三日から開催を予定しておりました「日本SF文学クロニクル」展は、新型コロナウイルスの影響により資料の調査、借用が困難となりましたことから、中止いたします。楽しみにされていた皆様には、心よりお詫びを申し上げます。

それに替えて、十一月二日（土）より、「没後60年 火野葦平展—レットテルはかなしからずや—」を開催いたします。ご来場をお待ちしております。

北九州市立文学館文庫17

火野葦平『青春の岐路』

北九州若松出身の芥川賞作家・火野葦平の自伝的小説『青春の岐路』を刊行します。

『青春の岐路』は葦平が二一歳から二四歳頃の時代を描いた作品です。早稲田大学で学んでいた葦平は一九二八年、福岡第二四歩兵連隊に幹部候補生として入営。その後、大学を中退、玉井組に入り、労働運動に携わっていきます。若かりし日の葦平の悩み、思いが伝わってくる一冊です。十一月二日刊行予定です。どうぞお楽しみに。

（定価：一〇〇〇円）

【販売】文学館インフォメーション、ブックセンタークエスト小倉本店

展覧会 開催予告

北九州市立文学館第28回特別企画展

没後60年 火野葦平展

—レットルはかなしからずや—

令和2年11月21日(土)～令和3年2月14日(日)

主催：北九州市立文学館



火野葦平

北九州若松出身の芥川賞作家、火野葦平は今年、没後六〇年です。

一九三八年、中国戦線出征中に「糞尿譚」で芥川賞を受賞した葦平は陸軍報道部に転属となり、従軍記「麦と兵隊」に始まる〈兵隊三部作〉で、一躍国民的作家となりました。戦後は公職追放となりましたが、解除後は代表作『花と龍』や『革命前後』など多くの作品を書きました。本展は約二〇〇点の資料とともに、火野葦平の生涯と文業をご紹介します。

【関連イベント】

開会記念講話

渡辺考さん（NHKエデュケーショナル特集文化部部長プロデューサー）、『戦場で書く―火野葦平の二つの戦場』著者

文学講座

①坂口博さん（火野葦平資料の会会長）

《日時》1月23日 14:00～15:30

②増田周子さん（関西大学教授）

《日時》1月30日 14:00～15:30

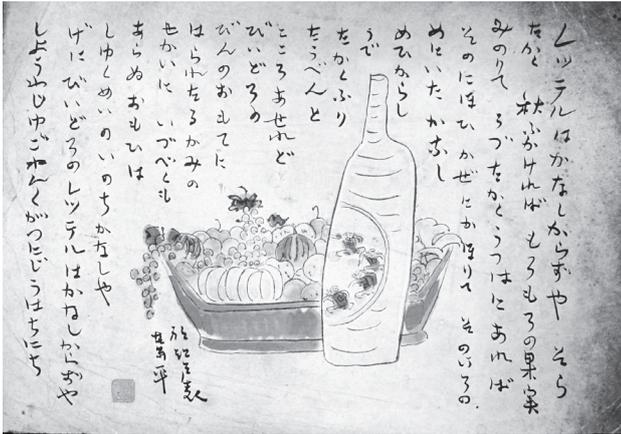
③稲田大貴さん（北九州市立文学館学芸員）

《日時》2月6日 14:00～15:30

学芸員によるギャラリートーク

《日時》11月28日、12月12日、26日、2021年1月9日、2月13日

時間は全て14:00から30分程度



火野葦平画・筆 色紙「レットルはかなしからずや」

お祝い

・伊藤比呂美さん（詩人）が、『なつちゃんのおなつ』（福音館書店）で第67回産経児童出版文化賞・美術賞を受賞されました。

・長山靖生さん（作家・文芸評論家）が、『モダンズム・ミステリの時代 探偵小説が新感覚だった頃』（河出書房新社）で第20回本格ミステリ大賞の評論・研究部門を受賞されました。お二人に心からお祝い申し上げます。

【お悔やみ】

・伊藤敬子さん（俳人）令和2年6月5日逝去、85歳。俳句誌「笹」を創刊、主宰を務める。

・杉田久女に関する研究書などをご恵贈いただきました。

・高山保材さん（北九州市小倉少年少女合唱団団長）令和2年6月22日逝去。「あなたにいたたくて生まれてきた詩」コンクールイベントで宗左近やみずかみかずよの詩の合唱を披露して下さいました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

提供雑誌

青嶺、馬酔木、花鶏、阿蘇、あん、いのちの籠、海、沖、海峡派、北九州歌人協会、北九州国文、北九州文化、九州俳句、九州文学、鯨々、玄海、自鳴鐘、scripta、星火方正、青穂、粂、船団、川柳くらがね、川柳むらさき、空、タルタ、小さい旗、卓上作法、天籟通信、新壘、西日本文化、虹野、浜木綿、ふだんぎ、ふよう、ぼち袋、村、八雁、遼

寄贈者・提供者

青森県近代文学館、栗谷さやか、池田美保、いわき市教育文化事業団、梅田明日佳、江中真弓、海老井英次、遠藤周作文学館、大原富枝文学館、大阪俳句史研究会、かごしま近代文学館・メルヘン館、神奈川近代文学館、鎌倉文学館、川西町フレンドリープラザ、川村湊、菊池寛記念館、久保園佳代、国立民族学博物館、さかい利晶の杜・与謝野晶子記念館、全国文学館協議会、高山市文化協会、高見順文学振興会、筑紫野市歴史博物館、調布市武者小路実篤記念館、坪内稔典、鶴岡市立藤沢周平記念館、東京都江戸東京博物館、徳島県立文学書道館、那須正幹、日本現代詩歌文学館、花田理枝、埴谷島尾記念文学資料館、姫路文学館、広海めぐり、ふじ工房、福岡市総合図書館、ふらんす堂、古谷龍太郎、文学の森、文京区立森鷗外記念館、編集工房ノア、松延羽津美、松本千恵乃、まはら三桃、森鷗外記念館（津和野町）、柳生じゅん子、山田稔、山本飛雲

2020年10月1日発行

北九州市立文学館

〒803-0813
北九州市小倉北区内4-1
TEL 093-571-1505
<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>

■ 開館時間

9:30～18:00（入館は17:30まで）

■ 休館日

毎週月曜日（月曜日が休日の場合は翌日）
年末年始